

大阪コミュニティカ専門学校(非)○青野香織

大阪城南女短大 奥山佳世 山口雅子 兵庫教育大 菊澤康子

目的：第1報に続き、シルバーハウジングの現状と問題点を居住者の立場から検討する。これまでに供給されているシルバーハウジングを見ると、公営住宅法の面積制限の影響もあり、単身者向け1DK、2人世帯向け2DKタイプの供給が多い。限られた面積とタイプの中で平面を構成をしていくことから、供給側の工夫と苦勞が見られるが、そこでの過ごし方や使い勝手についての検証は十分されているとはいえない。しかし高齢者は住生活時間が長いだけに住みよい平面構成を考えることが必要であると考え、そのための条件を明らかにする必要がある。同じ1DKでもシルバーハウジングの供給主体により多少プランが異なり、同じプランでも個人によって住み方による違いが考えられることから、住み方の実態を把握することにより、共通する問題点の把握と平面構成に求められる条件を明らかにすることを目的とした。

研究方法：調査期間、対象は第1報と同じである。居住者に対し住み方実態と、広さ、間取り、様式に対するニーズについて訪問面接聞き取り調査を行った。また、訪問時に住み方を観察し、間取り図に記録した。

結果：現状の部屋数では不足と感じている人の多くは寝室として使用できる部屋を要求している。特に1DKの場合、来客に寝室を見られることに関する問題がある。同じ面積の住宅でも間仕切りの仕方により広さの感じ方に違いがある。日常の生活や食事はDK及びDKに隣接する和室で行われることが多く、また寝室にも使われるため食寝分離はされていない場合が多い。2DKの場合、DK以外の居室の連続性、和洋式、方位などの配置によって各部屋の使用目的や頻度に違いがある。